

ご紹介ありがとうございます。この会合の前に事前の資料をお送りしましたが、話す内容を変えようと思います。今までの皆さんのお話を聞いて、そう思いました。興味深い話としましては、リーマンショック後の新しいガバナンスに関する話をしたいと思います。日本とイタリアは世界的な経済シーンにおきまして、大きな役割を担っております。このフォーラムにおきまして、両国がこのように集うというのは景気の活性化を話すのに非常に重要なことだと思います。短いうちに重要な決定が多くなされ、国際的な経済回復がなされることを願っております。本日お話ししたいことは大銀行のイデオロギー的なものです。つまり、様々なメディアとか新聞に景気後退のニュースでありふれている今日であります。大銀行に対する反対、つまり銀行は中小なもので地域に根付いたものでなくてはならないという意見があります。そして一方では大銀行の方が良いのではないかと、大きな金融グループのほうが重要であるという意見もあります。ですから、今の世界経済の中で私たちが行っている活動についてお話ししたいと思います。このような話をする事によって、どちらの銀行が良いかというディベートに対する答えを出したいと思います。つまり大銀行グループの存在意義が本当にあるのだろうかというような話をしたいと思います。

世界のガバナンスの責任者たち、政治の責任者たちは自問をしなければなりません。大きなグループを存在させるべきだろうか、あるいはもう存在させるべきではないのだろうか、もしもそうでない場合、世界のCEOたちを集めて、世界不況があるのだから大銀行をつぶしてしまえというような次のプロセスに移るわけです。今まで存在してきた既存のモデルであります。私たちが機能しない場合は倒してしまえという意見が出るかもしれません。私個人の考えとしましては、このような大企業の存在を信じております。その理由をお話しましょう。今まで学術的な研究を行ったレポートなどがあります。ミラノのカトリック大学が行った調査ですが、彼らが2008年に行ったりサーチ、分析によりますと、このような大企業の融合、合併がヨーロッパで2006年まで行われてきました。半分がクロスロードなもの、半分が国内的なものでした。このレポートは非常に分厚いものでした。その中で研究者たちは膨大なデータを集めて解析していたわけです。このような合併の結果、銀行の効率化の面で見ますと、非常に良い結果、成果が出ているということがわかりました。つまり合併することによって、消費者にとっても効率の良い結果であったというのが一つです。最近の新聞にもこのような意見が載せられていいます。つまり非常に深めたりサーチであるわけです。私はこのようなりサーチを信じたいと思います。もう一つ実際のオペレーションの中で実感したことです。ウニクレジットは10年の間に22カ国の銀行の管理を手にしました。これらがウニクレジットの資本力となるわけです。ですからこのような22カ国の銀行ネットワークのノウハウを東ヨーロッパ、ドイツ、カザフスタンなどに送っているわけです。ですから、私たちウニクレジットグループとしましては、それぞれの国に様々なノウハウの結集したわけです。トルコはもっとも進んでいると知っておりましたので、そのノウハウを他の国にも使用していきました。このテクノロジーを移転していくというオペレーションは国際的な大企業でなくては出来なかったことです。2代に渡って行われる壮大なオペレーションなのです。私たちのホールディングとしましては本部がしっかりとしており、同時に22カ国の銀行を支配しているということは大規模銀行だから出来たことです。ですから

これが大銀行のアドバンテージだと思っております。大きい銀行の効率の良さというのがアドバンテージの一つです。様々なディベートの内容がありますが、もう一つか二つお話ししましょう。

もし国際的なグループを温存させておくということが決まるとしましょう。しかしながらファイナンスのガバナンスを短期間で改善しなければなりません。このようなディベートも活発に行われております。ヨーロッパは今非常に経済危機にある、そしてアイランドの国民投票によって参加するかしないかが決まるところであります。ヨーロッパとしましてはファイナンスガバナンスに関する仕事を進めております。ユーロ圏内をすべて管理する一つの統合された管理方法を考えております。どういった改善であるかという、半年間くらいの短期間でやらなければならないのですが、国際的な銀行がたった一つの管理システムによって動かなければならないということになるわけです。例えば銀行のグループであるユニクレジットが存在するとどこかでお金が足りないとか通貨供給量が足りないという時に、どのように改善することが出来るかということを考えるわけです。EUで監視システムが実施されれば、我々が22カ国の政府との話し合いが必要でなくなります。大きな銀行は場合によっては倒産寸前の状況まで至ったわけですが、これを避けるには我々がいくつかの制限があったとか危機が発生したとか、例えばリーマンショックはその一つの例ですが、アメリカの政府はリーマンブラザーズは倒産させても良い、影響はそれほどないだろうと思ったが、全世界に大変な影響を及ぼしたということはアメリカの政府は考えていなかったということは実態です。世界の半分は打ちのめされたといった感じになったわけです。しかしこういったことは世界中の状況において、もし我々がグローバルな状況で資本主義が壁にぶつからないようなシステムになるためにはそれなりの政策を考えなければなりません。以上、ありがとうございました。